

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション技術Ⅱ (手話) (2単位)	3. 科目番号	SNMP2113
2. 授業担当教員	真下 京子		
4. 授業形態	講義、手話技術演習、聴覚障害者との対話・交流	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>手話は、聴覚障害者の生活の中で創り出され守られ、発展してきた言葉である。手話の歴史は聴覚障害者の人権復権の歴史とも言える。</p> <p>この講義では、聴覚障害についての基本的な理解をしながら、人間の生活にとって「ことばやコミュニケーション」の果たす役割を考え、話し言葉としての手話の成立や発展過程、文法的な特徴、聴覚障害者を取り巻く社会的な環境を学ぶ。また、手話技術においては、話し言葉としての手話を基本に、日常会話の基礎、自分のことを伝え合う技術を習得する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害者の運動や聴覚障害者の暮らし、聴覚障害そのものについて学び、知識を身につける。 2. 人間の生活にとって「ことばやコミュニケーション」がいかに大切かを学び、説明することができる。 3. 介護施設を利用する聴覚障害者が使う簡単な手話が理解でき、手話での挨拶や自己紹介程度の会話が可能なレベルの手話技術を習得することができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：バリアフリーを考える(1200字程度)</p> <p>「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」のビデオ鑑賞をし、同じ学生の立場から感じ取ったことを記述する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】※プリントを配布</p> <p>【参考書】一番ヶ瀬康子監修『聴覚・言語障害者とコミュニケーション』一橋出版株式会社。</p> <p>ビデオ：聞こえないことってどんなこと『わたしの大切な家族』(全国手話通訳問題研究会)。</p> <p>ビデオ：医療現場における手話通訳『京都ろうあ老人ホーム』(日本手話通訳士協会)。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者の運動や聴覚障害者の暮らし、聴覚障害そのものの知識が身についたか。 ・人間の生活にとって「ことばやコミュニケーション」がいかに大切かを説明できるか。 ・介護施設を利用する聴覚障害者が使う簡単な手話が理解でき、手話での挨拶や自己紹介程度の会話が可能なレベルの手話技術が習得できたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技確認 (期末試験) 60% (①手話表現確認 ②読み取り確認) ・レポート 30% ・日常の授業態度 (質問、出席状況) 10% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>聴覚障害者が安心して介護を受けるために、手話通訳者が果たす役割は大きいものがありますが、もしも介護現場の人が少しでも手を動かしてくれれば、より安心し深い信頼関係を築くことができます。</p> <p>人は一人で生きるのではなく、多くの人と助け合いながら生きていくものです。そのためにはコミュニケーションが必要不可欠なものであり、聴覚障害者へのコミュニケーション保障は憲法にある基本的人権を保障することにつながります。したがって手話を学ぶ学生にも聴覚障害者のことを理解してほしいという願いがあるのです。こうした理由によって手話は技術以外のことも学ぶ必要があります。この点が手話の特徴のひとつであり、魅力でもあるのです。</p> <p>表情や体全部を使って相手と語り合う手話は、コミュニケーションの大切さを改めて実感できます。それは人と人との関わりの原点と言えるでしょう。そういった魅力を学生たちにも感じて欲しいと思います。</p> <p>①授業に際しての約束事項 (受講生への要望)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手話は目と目を合わせなければ語り合えません。しっかり相手と向き合って手を動かしましょう。 2. 手話は頭だけで理解し覚えることはできません。手と体を使って手話表現を覚えましょう。 3. 授業中に私語や居眠りはしないようにしましょう。後でやろうと思ってもわからなくなってしまいます。 <p>②勉強の仕方についてのアドバイス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指文字・教詞は早く全部覚えるようにしましょう。試験には必要不可欠です。 2. 学習した内容は、一人で復習するよりも友達と一緒にやる方が覚えられます。習った手話表現を実際に使ってみることが一番の手話技術習得につながると思います。 <p>③教師が実行すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の準備を事前にする。 2. 授業開始時間と終了時間を厳守する。 3. 「手話の授業は楽しい。もっと勉強したい。」と思えるような授業にする。 		
13. オフィスアワー	授業の前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	手話を学ぶにあたって 指文字学習 自分の名前・指文字を覚えよう	事前学習	もしも自分が、突然耳が聞こえなくなったら・・・と考えてみる
		事後学習	習った手話指文字を日常生活の中で使ってみよう
第2回	指文字学習 伝え合う工夫を：挨拶・会話例文 (一日の始まりはまず元気なあいさつで) 第1講座	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	習った手話・指文字を日常生活の中で使ってみよう

第3回	指文字学習 聴覚障害者とバリアフリー「聞こえないって、どんなこと？」聴覚障害者の暮らしを描いたビデオから学ぶ 自分達の暮らしと比べながら生活や様子を知り、不便さを取り除くバリアフリーの設備や方法を考える	事前学習	テレビで聴覚障害者の番組を見る
		事後学習	自分の一日の暮らしを、聞こえなかったらどうなるか、自分の事に置き換えて、考えてみよう
第4回	指文字学習 手話歌「この手で歌おう指文字の歌」	事前学習	これまで習った指文字の復習
		事後学習	目に入ってきた日本語の単語を指文字でやってみよう
第5回	伝え合う工夫を①：日常的な動作、動きの活用・会話例文（食事の時間です）第2講座 手話歌から学ぶ：コブクロ「永遠とともに」	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第6回	伝え合う工夫を②：日：数詞・会話例文（今日はお誕生日があります）第3講座	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第7回	伝え合う工夫を③：疑問詞・自己紹介（今日は実習生の鈴木さんがきました）第4講座 都道府県名の手話	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第8回	バリアフリーを考える 「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」 ビデオから学ぶ（ディスカッションとレポート提出課題）	事前学習	もし、同級生にろう・難聴学生がいたら、自分はどうか対応するか考えてみる
		事後学習	ビデオを見て改めて、ろう・難聴学生にとっての情報バリアフリーについて考えてみよう
第9回	伝え合う工夫を④：疑問詞・身近な話題で会話（仕事や趣味について）第5講座 聴覚障害について DVD から学ぶ（聞こえのしくみ・ろう者・中途失聴・難聴者のコミュニケーション）	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第10回	伝え合う工夫を⑤：時制・会話例文（明日は山本さんが楽しみにしている外出日です）第6講座	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第11回	伝え合う工夫を⑥：時制・会話例文（土井さんがクリスマスの計画を相談しています）第7講座 手話歌から学ぶ：クリスマスソング	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第12回	趣味・家族の事・最近の出来事等々を学生と手話で語り合う	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文を友人や家族とのとの会話の中で使ってみよう
第13回	ろう者の社会参加と平等のあゆみ ろうあ老人についてビデオから学ぶ（聴覚障害者特別養護老人ホーム「いこいの村」〔京都〕）	事前学習	自分の働く施設の入所者にろうあ老人がいたらどうするか考える
		事後学習	ビデオを見て、改めて自分の職場を想定して考えてみる
第14回	未就学ろうあ老人についてビデオから学ぶ 伝え合う工夫を：総復習	事前学習	テキストの「言葉を持たないお年寄りと共に」を読んでおく
		事後学習	ビデオを見た感想を書きとめておこう
第15回	伝え合う工夫を：総復習 手話歌から学ぶ：EXILE「道」	事前学習	前回の復習
		事後学習	手話の習得と活用
期末試験			